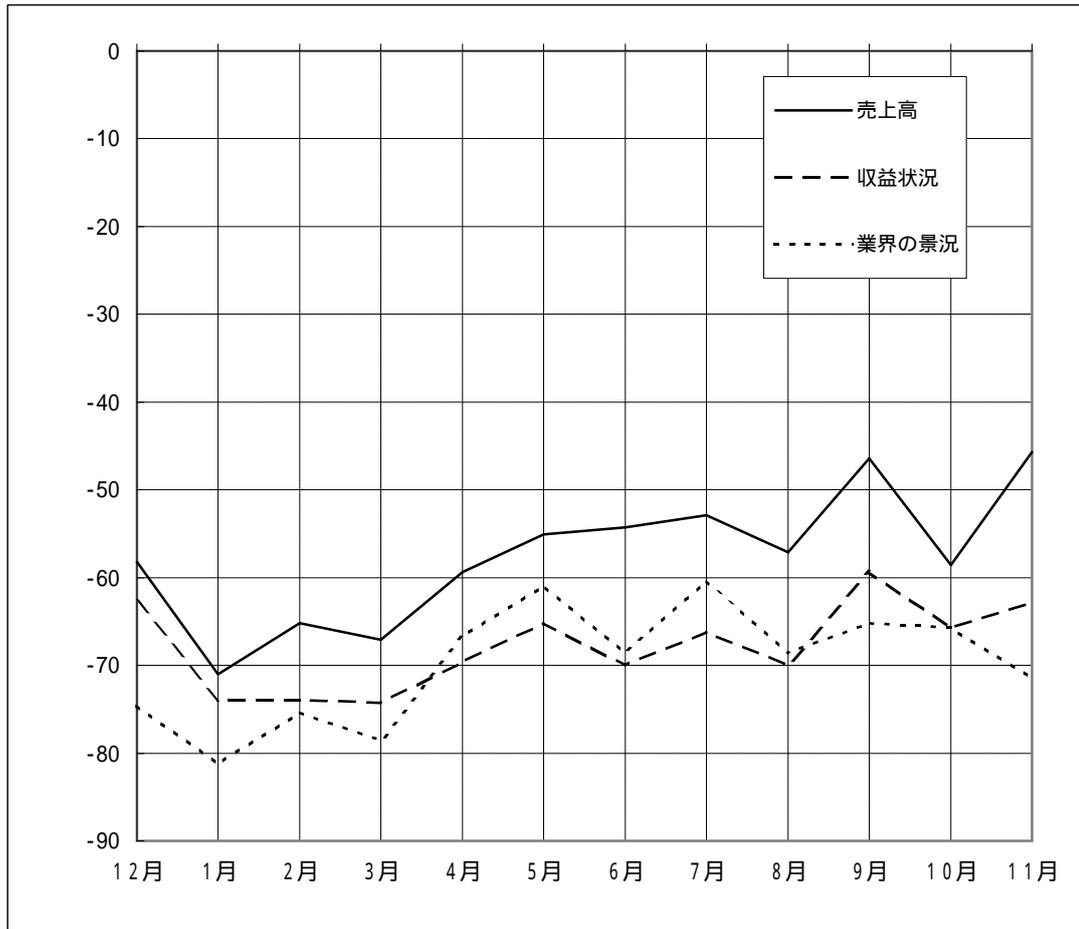


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年12月～平成14年11月

単位:ポイント



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7
収益状況	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9
業界の景況	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4

11月のDI値をみると、2項目に改善が見られたが「景況」は悪化し3月以来の水準に。「景況」は前月より5.7ポイントの悪化と、3月以来8か月振りに-70%台になる。「売上高」は12.9ポイントと大幅な改善となり9月の水準に、「収益状況」も2.8ポイントと僅かではあるが改善され、この2項目をだけを見ると8月より一進一退で推移しているが、中小企業の業況は、「景況」が8か月振りに-70%台になるなどの状況から、引き続き厳しい環境下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、不変とする割合が減った中で、「鉄鋼・金属」「一般機器」で悪化とする割合が増え、この2業種の他に「木材・木製品」で悪化とする割合が高く、また、非製造業では、不変とする割合が減った分悪化とする割合が増えた中で、総体的には製造業より景況感が悪く、「商店街」を含めた「卸売業」「建設業」「鉱業」で悪化とする割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「一般機器」を含めた製造業では、受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他、倒産・組合脱退に関する報告が急増した。また、「商店街」「卸・小売業」を含めた非製造業では、販売単価の低下や個人消費の低迷による売上げの減少等なかなか回復の兆しが見られない苛立ちと先行きに対する不安感の報告が見られるなど、総体的にも業種を問わず倒産・組合脱退等の他、先行きの不透明感を危惧する報告等相変わらず厳しい状況下にあることが窺える。